

伊吹小・中学校ジオサイト学習の取り組み

観音寺市立伊吹小学校 篠原五良



伊吹島

1. ジオサイト学習のねらい

ジオパークの考えを取り入れたジオサイト学習には次の効果が期待される。

- ① グローバリズムに負けない真の地方創生
- ② 自然の恵みと脅威を理解 (防災)
- ③ 共生と助け合い連携 (減災)
- ④ 地域のことを大切に考える心 (郷土愛)
- ⑤ 問題解決への第一歩 (教育的価値)

2. 伊吹島について

- ・伊吹島は香川県観音寺港沖約10km、面積約1km²、人口約440名の島である。
- ・瀬戸内火山活動で島が誕生、地殻変動で瀬戸と灘ができ、瀬戸内海が天然のいけすになった。
- ・うどんのだしに使われるイリコの生産が主な産業
- ・仕事を海岸沿いに、住まいを高台に住み分ける職住分離の暮らし方をしている。
- ・近年、アサギマダラの飛来もあり「海の駅」としても注目を集めている。

3. 取り組み紹介 足で歩き、手で感じ、目で確かめる

(1) 地形と岩石から島を考える (2019年度)

① ゲストティーチャー授業

講師：讃岐ジオパーク構想推進準備委員会
高橋 輝章 氏 (元高校地学教諭)

伊吹島の海際は、安山岩でできているのに対して、対岸の観音寺市有明浜は花崗岩の砂浜であることを理解し、川のおかげで砂浜が形成されていることを学習した。



② ジオおにぎり

伊吹島の食材(伊吹島ちりめん、伊吹ふりかけ)を使っておにぎりを作った。



③ 学習発表会

授業の成果をNHKプラタモリ風にまとめて、発表した。アサギマダラダンスも披露。



(2) 地形と島の産業を考える (2020年度)

① なんでも岩定団2020

サヌカイト、庵治石、菊花石など香川の石をクイズ形式で出題し、用紙に回答してもらった。



② ジオ茶会

白芋を使ったお菓子和茶巾をいただいた。黒板には「好きな魚(魚へんのつく漢字)」を掛け軸にして展示した。



③ 伊吹島の食生活体験

白芋を使った蒸しケーキ作り、干し芋作りで、伊吹島に残る食文化を体験した。なぜ伊吹島で白芋を作っているのか？島の大地の特徴を考えてもらった。

④ 学習発表会「伊吹島の過去と未来」

捕れる魚の種類、昔と今のイリコ漁、自然災害と環境問題等を発表し、2021年度のテーマ「伊吹島はなぜイリコの島になったのか」の導入とした。



(3) 伊吹島のジオサイトを考える (2021年度)

課題：伊吹島はなぜイリコの島になったのか？

① 本年度の学習内容

- ・低学年 ジオサイト見学 イリコの商品調べ
- ・中学年 イリコ漁に尽くした人「伊瀬三兄弟」
- ・高学年 伊吹島の成り立ちとイリコ産業

② なんでも岩定団2021

香川県にある石(花崗岩、安山岩)と徳島の石(変成岩)をクイズ形式で出題し、用紙に回答してもらったが、徳島の石は見たことがなかったので難しいようだった。



③ 教員研修

讃岐ジオパーク構想推進準備委員会と連携して、教員のための伊吹島ジオサイト探訪、座学を行った。秋には、児童、生徒に向けた外周クルーズ、学習発表会「伊吹島は、なぜイリコの島になったのか？」を開催予定である。



提供：讃岐ジオパーク構想推進準備委員会

* アサギマダラを通じた交流

2019年度

フジバカマの栽培とアサギマダラの飛来の研究を通して愛媛県宇和島市立高光小学校と交流が始まる。



2020年度

高光小学校と総合学習の様子をビデオや手紙で交換した。高光小学校から愛媛のみかんが届き、伊吹小学校からは伊吹イリコを送り、互いの地域の特産品を学んだ。



2021年度

キジョランでの産卵・羽化情報を高光小学校と交換。アサギマダラの生態解明が進んだ。

